

＜石尾台中学校区＞
学校統合に向けた第2回意見交換会 次第

日 時 令和7年12月20日（土）
午後2時から午後4時まで
場 所 東部市民センター ホール

- 1 開会
- 2 学校統合に向けた検討について
- 3 意見交換
- 4 その他
- 5 閉会



市ホームページ

これまでに実施した、学校の適正規模等
に関するアンケート結果及び意見交換会
の会議録を掲載しています。

I 小中学校の適正規模等の取組について

日本の人口は平成 20 年をピークに減少局面に入り、合計特殊出生率は低い水準で推移しています。全国的に出生数が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいます。

本市の小学生の人数は、昭和 56 年度の 30,636 人をピークに、令和 13 年度には約 57% 減少の 13,312 人に、中学生の人数については、昭和 61 年度の 15,330 人をピークに、令和 19 年度には約 59% 減少の 6,221 人になると推計しています。

子どもたちの数の減少により、今後標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えています。

将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現していくために、本市では、学校の適正規模や適正配置について検討を進めています。

1 学校規模の区分

過小規模	全学年でクラス替えができない規模
小規模	クラス替えができない学年がある規模
やや小規模	(中学校のみの区分) 小規模だが、全学年でクラス替えができる規模

(1) 小学校における学校規模の区分

学級数	～6	7～11	12～24	25～30	31～
区分	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模

(2) 中学校における学校規模の区分

学級数	～3	4～5	6～11	12～24	25～30	31～
区分	過小規模	小規模	やや小規模	適正規模	大規模	過大規模

2 学級数の基準

学級数については、現行の 1 学級あたりの児童生徒数の基準で推計しています。

学年	人数
小学 1 年生～中学 1 年生	35 人
中学 2 年生及び中学 3 年生	40 人

3 学校規模によるメリット・デメリット

「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」P18、19、22からの抜粋

(1) 規模が小さい学校のメリット

- ① 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ③ 様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。
- ④ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- ⑤ 教材や教具などを一人ひとり行き渡らせやすい。
- ⑥ 異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
- ⑦ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に活かした教育活動が展開しやすい。
- ⑧ 児童生徒の家庭の状況や地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

(2) 規模が小さい学校のデメリット

ア 学級数が少ないことによる課題

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ③ 教員の加配なしには、習熟度別指導など、クラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- ⑤ 運動会や文化祭、遠足、修学旅行などの集団活動や行事の教育効果が下がる。
- ⑥ 上級生と下級生間のコミュニケーションが少なくなる。学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- ⑦ 体育科の球技や音楽科の合唱や合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑧ 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ⑨ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- ⑩ 教科などが得意な子どもの考えに、クラス全体が引っ張られがちとなる。
- ⑪ 生徒指導上の課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける。
- ⑫ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ⑬ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

イ 教職員数が少なくなることによる課題

- ① 経験年数や専門性、男女比などのバランスの取れた教職員配置やそれらを活かした指導の充実が困難となる。
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある。
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる。多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ④ チーム・ティーチングやグループ別指導、習熟度別指導、専科指導などの多様な教育方法をとることが困難となる。
- ⑤ 教職員一人あたりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。
- ⑥ 学年によって学級数や学級あたりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生じる。
- ⑦ 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会などに参加することが困難となる。
- ⑧ 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくく（学年会や教科会などが成立しない。）。
- ⑨ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。
- ⑩ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある。
- ⑪ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる。

ウ 学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

- ① 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につきにくい。
- ② 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- ③ 協働的な学びの実現が困難となる。
- ④ 教員それぞれの専門性を活かした教育を受けられない可能性がある。
- ⑤ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくく。
- ⑥ 教員への依存心が強まる可能性がある。
- ⑦ 進学などの際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- ⑧ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
- ⑨ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。

(3) クラス替えが可能になることによるメリット

- ① 児童生徒同士の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる。
- ② 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる。
- ③ 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
- ④ クラス替えを契機として、児童生徒が意欲を新たにすることができます。
- ⑤ 学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる。
- ⑥ 学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導などの多様な指導形態をとることができます。
- ⑦ 指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる。

4 本市の考え方

全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えます。

過小規模	過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合など
小規模	により、適正規模の確保に努めるよう検討します。
やや小規模 (中学校のみ)	その推移を見守ることとし、必要に応じて通学区域の変更などを検討します。

5 最優先に検討する中学校区

中学校区で見た場合に、将来、全ての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される中学校区（坂下・藤山台・高森台・石尾台・岩成台）にある学校について、最優先に検討することとし、取組を進めています。

(1) 坂下中学校区

坂下中学校、坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校

(2) 藤山台中学校区

藤山台中学校、藤山台小学校

(3) 高森台中学校区

高森台中学校、高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校

(4) 石尾台中学校区

石尾台中学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校

(5) 岩成台中学校区

岩成台中学校、岩成台小学校、岩成台西小学校

6 これまでの取組

(1) 令和7年2月

「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」の策定

(2) 令和7年4月～5月

小中学校のPTA役員への説明、意見交換

(3) 令和7年5月～6月

保護者、子どもアンケートの実施

(4) 令和7年6月～7月

地域アンケートの実施

(5) 令和7年9月～10月

第1回意見交換会の開催

II 児童生徒数推計について

令和13年度では、中学校区内の全ての小学校が全学年で学級数が1学級の「過小規模」であると推定され、令和22年度では児童数がさらに減少すると推計されます。

(1) 石尾台中学校 ※R18から「小規模」になり、R22では「やや小規模」であると推定

学年	R7(やや小)		R8(やや小)		R9(やや小)		R10(やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	110	4	103	3	100	3	100	3
2年	112	3	110	3	103	3	100	3
3年	115	3	112	3	110	3	103	3
合計	337	10	325	9	313	9	303	9

(2) 玉川小学校 ※R9から「過小規模」になると推定

学年	R7(小)		R8(小)		R9(過小)		R10(過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	25	1	21	1	25	1	19	1
2年	25	1	25	1	21	1	25	1
3年	33	1	25	1	25	1	21	1
4年	27	1	33	1	25	1	25	1
5年	46	2	27	1	33	1	25	1
6年	39	2	46	2	27	1	33	1
合計	195	8	177	7	156	6	148	6

(3) 石尾台小学校 ※「過小規模」で推移

学年	R7(過小)		R8(過小)		R9(過小)		R10(過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	21	1	22	1	14	1	23	1
2年	24	1	21	1	22	1	14	1
3年	33	1	24	1	21	1	22	1
4年	31	1	33	1	24	1	21	1
5年	21	1	31	1	33	1	24	1
6年	29	1	21	1	31	1	33	1
合計	159	6	152	6	145	6	137	6

(4) 押沢台小学校 ※R13から「過小規模」になると推定

学年	R7(小)		R8(小)		R9(小)		R10(小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	36	2	25	1	29	1	27	1
2年	21	1	37	2	26	1	30	1
3年	38	2	22	1	38	2	27	1
4年	35	1	39	2	23	1	39	2
5年	25	1	36	2	40	2	24	1
6年	32	1	26	1	37	2	41	2
合計	187	8	185	9	193	9	188	8

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
108	4	76	3	84	3
100	3	108	3	76	2
100	3	100	3	108	3
308	10	284	9	268	8

R19 (小)	
生徒数	学級数
33	1
54	2
38	1
125	4

R22 (やや小)	
生徒数	学級数
42	2
43	2
44	2
129	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
10	1	20	1	11	1
19	1	10	1	20	1
25	1	19	1	10	1
21	1	25	1	19	1
25	1	21	1	25	1
25	1	25	1	21	1
125	6	120	6	106	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
12	1
12	1
15	1
13	1
18	1
15	1
85	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
11	1	13	1	9	1
23	1	11	1	13	1
14	1	23	1	11	1
22	1	14	1	23	1
21	1	22	1	14	1
24	1	21	1	22	1
115	6	104	6	92	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
10	1
11	1
15	1
14	1
8	1
11	1
69	6

R11 (小)		R12 (小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
17	1	26	1	13	1
28	1	17	1	27	1
31	1	29	1	17	1
28	1	32	1	30	1
40	2	29	1	33	1
25	1	41	2	30	1
169	7	174	7	150	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
16	1
10	1
17	1
16	1
10	1
13	1
82	6

【参考】玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の合計

学年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	82	3	68	2	68	2	69	2
2年	70	2	83	3	69	2	69	2
3年	104	3	71	3	84	3	70	2
4年	93	3	105	3	72	3	85	3
5年	92	3	94	3	106	4	73	3
6年	100	3	93	3	95	3	107	4
合計	541	17	514	17	494	17	473	16

R11 (適正)		R12 (適正)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
38	2	59	2	33	1
70	2	38	2	60	2
70	2	71	3	38	2
71	3	71	3	72	3
86	3	72	3	72	3
74	3	87	3	73	3
409	15	398	16	348	14

R22 (小)	
児童数	学級数
38	2
33	1
47	2
43	2
36	2
39	2
236	11

III アンケート結果について

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】

児童アンケート…【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

- ・小学校回答者数… 918 人 (保護者 417 人、児童 (3~6年生) 374 人、地域の方 127 人)
- ・中学校回答者数… 494 人 (保護者 200 人、生徒 294 人)

1 学校の適正規模等に取り組むことについて

1学年に2学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約5割、地域の方で約6割、中学校の保護者で6割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成
「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

Q 小中学校ともに1学年に2学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
全体	【保護者】	54.7%	27.1%	18.2%
	【地域】	64.6%	11.0%	24.4%
玉川小	【保護者】	58.1%	26.4%	15.5%
	【地域】	56.8%	10.8%	32.4%
石尾台小	【保護者】	59.1%	26.3%	14.6%
	【地域】	66.0%	14.0%	20.0%
押沢台小	【保護者】	46.2%	28.8%	25.0%
	【地域】	70.0%	7.5%	22.5%

② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
石尾台中	【保護者】	60.0%	27.5%	12.5%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
全体	【保護者】	89.5%	8.8%	1.7%
	【地域】	95.2%	2.4%	2.4%
玉川小	【保護者】	90.7%	5.8%	3.5%
	【地域】	100%	0 %	0 %
石尾台小	【保護者】	88.9%	9.9%	1.2%
	【地域】	90.9%	3.1%	6.0%
押沢台小	【保護者】	88.5%	11.5%	0 %
	【地域】	96.4%	3.6%	0 %

② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
石尾台中	【保護者】	85.8%	12.5%	1.7%

2 複数学級を望む声について

1学年に複数学級が望ましいと考えている方はとても多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えています。

【小学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **90.9%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **72.7%**

【小学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている児童 **60.4%**

【中学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **98.5%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **64.5%**

【中学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている生徒 **96.9%**

3 学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、体育大会などの行事でクラスに活気があることや、クラス替えができるて友達がたくさんできることなどが大事だと考えています。

地域の方は、子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育や、子どもたちの登下校について重要と考えています。

【小学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「運動会などが楽しくて、クラスが元気なこと」 **43.0%**
- ・「みんなで相談しながらいっしょに勉強が able できること」 **42.2%**

【中学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 **67.0%**
- ・「クラス替えができるて、たくさんの友達をつくれること」 **51.7%**

【地域】

Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

- ・「子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 **59.1%**
- ・「子どもたちの通学の距離や方法」 **58.3%**

4 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子どもの人間関係に広がりがあることを重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

【小学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 **60.0%**
- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 **54.4%**

【中学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 **50.0%**
- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 **40.7%**

【地域】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

- ・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活が送れること」 **78.7%**
- ・「学校と地域との連携が図られること」 **40.2%**

5 学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関する心配を抱いています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

【小学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関する心配」 **59.5%**
- ・「環境変化による子どもへの影響」 **20.1%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **56.4%**
- ・「登下校にかかる時間」 **31.4%**

【中学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関する心配」 **56.0%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **23.0%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **46.5%**
- ・「登下校にかかる時間」 **32.0%**

IV 意見交換会でのご質問・ご意見について

参加者からは、学校の統合に関するご質問を始め、今後のスケジュールやバスなどの通学について、魅力ある学校づくりについての質問が多くありました。また、学校跡地や情報発信についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	石尾台中学校（10月17日）	玉川小学校（10月9日）
参加者数	14人	22人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関するご質問 (4) ・児童生徒数推計について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・現状の学校の体制について (1) ・地域の活動について (1) ・意見交換会について (1) ・情報発信について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学バスについて (3) ・統合に関するご質問 (3) ・アンケートについて (2) ・通学区域の変更について (1) ・避難所について (1) ・いじめ等の対応について (1) ・少人数学級について (1) ・授業内容について (1) ・スケジュールについて (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・学校施設について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1)

学校名 (開催日)	石尾台小学校（10月6日）	押沢台小学校（10月7日）
参加者数	22人	30人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関するご質問 (4) ・通学について (3) ・過去の藤山台小の統合について (2) ・今後の具体的な検討の進め方について (2) ・アンケートについて (1) ・単学級のデメリットについて (1) ・1学級の人数について (1) ・スケジュールについて (1) ・情報発信について (1) ・意見交換会について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくりについて (5) ・統合に関するご質問 (4) ・スケジュールについて (3) ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・児童生徒数推計について (2) ・過去の藤山台小の統合について (2) ・学校跡地について (2) ・通学バスについて (2) ・学校選択制について (1) ・1学級の人数について (1) ・市の考え方について (1) ・その他の市の施策について (1) ・学童について (1)

※意見交換会の会議録は、資料表紙のQRコードからご確認いただけます。

石尾台中学校区意見交換会 質疑応答一覧

1 石尾台中学校

No.	質問	回答
1	石尾台中学校区の子どもの減少率は低い。空き家に人が入れば、子どもの数は増加していくと考えている。そういうことを含めて将来の推計値をもっと細かく見てほしい。	石尾台地区を含めたニュータウン地区全体の子どもの減少率は、市全域と比較しても大きくなっています。全国的に子どもの数が減少する中、特定の地域だけ子どもの数が増えるというのは期待できないと思います。現状の推計値をみて、検討を進めることが現実的だと考えます。
2	地形的に見ても、店の数など地域の利便性を考えても、ニュータウン地区が入居地として選ばれることは難しいと考えている。まちづくりの視点で道路等の整備等を実施してほしい。このことは、ニュータウン創生課や道路課へも要望として伝えている。また、統廃合については、3校のうち1校を本校に、残りは分校にしてもらいたい。年の半分を分校で、残りを合同で授業が受けれるようにしてもらい、学校を残さないと若い人に選ばれる地域にならない。	ご意見ありがとうございます。教育委員会としては学校の適正な規模等を検討していく中で、他の部署とも情報を共有していきます。
3	学校が統合した場合、しっかりした教育を受けることができるか心配。統合しても子どもの数が少ないのであれば、少人数だからこそ実施可能なＩＣＴ教育を進めるなど、先進的な教育を行ってはどうか。	先進的な教育など、魅力ある学校づくりは大切な視点だと考えます。 現在の子どもは個人的な環境で活動することが中心になっていると思います。このような環境の中、人間関係を築きながら社会規範を身に付けていくためには、一定の学校規模が必要と考えています。また、人間関係でつまずいた場合でも、クラス替えができることで、人間関係を再構築することができると考えています。
4	資料で石尾台中学校は推移を見守るとあるが、学校の適正規模化等の検討をしないということか。	石尾台中学校は令和22年度では「やや小規模」であるため、推移を見守るとしています。しかし、石尾台中学校区内の小学校の令和22年度の児童数推計では、仮に小学校3校を統合しても、1学年1学級の学年が生じる可能性があります。このことから、石尾台中学校区と他の中学校区とを合わせて検討する場合には、石尾台中学校も検討が必要になると考えています。
5	他の中学校は検討の対象になっているのか。他の中学校の検討によつては、石尾台中学校も検討することになるのか。	坂下地区、ニュータウン地区の中学校のうち、推移を見守ることとしているのは坂下中学校だけです。地域のつながりを考えて、まずは中学校区ごとで検討することとしていますが、隣接する中学校区との検討も次の段階で行う可能性はあります。中学校を統合することについても可能性としてはあります。

No.	質問	回答
6	学校を統合する場合、それぞれの学校の指導方法等にも違いがあるので、子どもたちが戸惑うと思う。統合が決まった段階で、小学校の時から指導方法を学校同士で合わせるなど、子どもたちが環境に適応できるようにする対応については、どのように考えているか。	子どもが環境変化に馴染めるかどうかは心配されることですので、子どもにも説明し、段階的な対応をとることで、子どもたちが新しい環境に慣れるようにしていきたいと考えています。 過去の統合では、事前に各学校の教員同士が協議して、指導方法等について調整し、学校行事やテストの実施方法などについて、子どもたちが戸惑うことなく、新しい学校に馴染めるように取り組んだ事例もあります。
7	取組が決まるまでは今の学校の枠組みが残ることになる。児童生徒数が少なくなることで、学校の体制が維持できなくなることはないのか。	今の子どもたちの教育環境を維持しつつ、市としては早く取組を進める必要があると考えています。
8	住んでいる地域の学校がなくなるのは悲しい。学校関係のボランティア活動を行う高齢者の方にはいきがいづくりにもなっている。市の取組を進める必要があると思うが、地域の皆さんとの気持ちも考えて少しづつ進めてもらいたい。	貴重な御意見ありがとうございます。今後も皆さまの御意見を聞きながら進めていきたいと考えています。
9	本日の意見交換会の参加者数が少ないように感じる。これでは、地域の考えを反映できないと思うので、今後も継続的に協議していくのであれば、市のPR方法を考えて、周知の仕方を考えてほしい。平日に参加できない人もいると思う。	保護者へは、Home&Schoolで配信し、地域の方には、回覧板で周知しています。しかし、時間帯によって参加できない方もおられるので、次回の意見交換会は土・日曜日の日中に開催し、より多くの方に参加していただきたいと考えています。
10	意見交換会に参加できなかった人にも会の内容がわかるようにしてほしい。	意見交換会の内容については、説明や質疑をまとめた議事録を作成しまして、市ホームページに掲載します。

2 玉川小学校

No.	質 問	回 答
1	<p>玉川小学校区では通学の問題が一番大きな問題になると思う。瀬戸市の「にじの丘学園」では、スクールバスを導入する話があったが、様々な問題があり中止となつたと聞いた。春日井市も同じになるのではないのか。</p> <p>また、交通事故など通学に付随する問題はいくつか挙げられるが、その点はどう考えているのか。</p>	<p>玉川小学校区のアンケート結果では、登下校に関する心配が他の地区に比べて多くありました。この地区は傾斜がある地形となっていることから、通学手段には配慮する必要があり、バスの運行などの通学手段についても検討していかなければならないと考えています。瀬戸市について、ご質問のとおり、スクールバスの話がありましたが、現状では路線バスを活用していると聞いています。また、小牧市でも学校再編が進んでいるところですが、スクールバス導入の検討が進んでいるそうです。</p> <p>登下校の手段についても様々な方法があると思うので、皆様と検討していきたいと考えています。</p>
2	<p>玉川小学校の児童は、石尾台中学校ができた際に、石尾台中学校に編入されたと聞いた。それよりも以前は、高蔵寺中学校に通っていた経緯があるので、高蔵寺中学校区に編入するはどうか。</p> <p>また、南城中学校や中部中学校など規模の大きな学校に通う生徒や、藤山台中学校に近いのにもかかわらず高蔵寺中学校に通っている生徒について、校区の見直しをすることで課題を解消するという検討はあるのか。</p>	<p>小中学校の適正な規模を考えるにあたっての手法としては、通学区域の変更と学校統合があげられますが、ニュータウン地区内は、全体的に子どもの数が減っており小規模校同士が隣り合っている状況であるため、通学区域の変更で対応することは難しいと考えています。</p> <p>高蔵寺中学校区との校区の見直しについては、地域とのつながりのことを考えて、まずは中学校区内での検討を考えています。ただ検討を進めていく中で、地域の皆様の総意として、通学区域の変更という希望が出てくれば、そのことも含めて検討する必要があると考えています。</p>
3	玉川小学校は地域の防災拠点としても役立っている。現状では玉川小学校を残す方針で考えているのか。	現段階では統合ありきでは考えていないので、具体的な予定などは決まっていません。ただ、もし仮に統合を進めたとしても、小学校が避難所として機能していることは十分承知していますので、避難される方が困ることがないような対応を検討します。
4	複数学級にしたとしても、いじめは解決しないと思う。小規模校であれば、教員が早い段階でいじめを認知し対応してくれるのではないか。	いじめの問題は簡単には解決できるものではなく、教員が気付いたときにはある程度進んでいることがあります。ただ単学級であると、同じクラス内でいじめた人といじめられた人が一緒に過ごすことを強いられてしまいますが、複数学級であれば、クラス替えによって環境を変えることができます。しかし、根本的な解決にはならないため、いじめの問題に関してはしっかりと対応する必要があると考えています。

No.	質問	回答
5	<p>瀬戸市はスクールバスではなく路線バスの活用となってしまった。その場合、バス停に保護者が送つていき、教師が学校で対応する必要がでてくる。そのため働いている保護者や教師に負担がかかると思う。市の予算的にスクールバスが保証できなくなる可能性はあると思うが、どのように春日井市は進めるのか。</p>	<p>スクールバスについては、子どもたちに負担がかかるような形での運用方法を皆様と一緒に検討していきたいと考えています。</p>
6	<p>アンケートについて、「適正規模」という文言がわかりにくいと思う。小規模、適正規模のメリットやデメリットを提示しないと、賛成に引っ張られてしまうと思う。</p> <p>アンケートの結果では「子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」をしてほしいというのが、多くの方の願いだと思う。</p> <p>仮に石尾台中学校区の3校が統合したとすると、1クラスの人数が30人くらいになってしまい、現在よりも子どもたちと先生との交流がなくなると懸念している。適正規模にすることが果たして本当に子どもたちにとって良いことなのか。現在、国が1クラス35人と定員を定めているが、諸外国のように30人、25人とクラスの定員を減らす方向性はあるのか。</p>	<p>今後、国や県が1クラス当たりの人数を減らしていくことについては、お答えできませんが、国や県の議論を注視していきます。</p> <p>アンケート実施の際の小規模校と大規模校のメリットデメリットがわかりにくいというご指摘については、令和7年の2月に策定した「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」をホームページに掲載し、その中で示していたものの、皆様に伝わりづらかったと思います。今後は、改めてメリット、デメリットを示した上で、次の意見交換会を実施していきます。</p> <p>また、仮に石尾台中学校区内の小学校3校が統合した場合でも、令和22年度では2年生は33人となり、1クラスにしかなりません。そのため、市としては1クラスにしかならない状況を改善するため、中学校区を超えて隣接する学校区と合わせた検討も視野に入れる必要があると考えています。</p>
7	<p>適正配置に関して、統合により登下校に多く時間がかかると、若い世代は流入してこないと思う。その点に関して打開策はあるのか。</p> <p>また、バスの民間委託は難しいと思うが、その点はどう考えているのか。</p>	<p>仮に学校を統合した場合、通学距離だけで見れば負担感を強く感じる方もいると思いますが、まちづくり的な視点から、新たな魅力ある学校づくりをすることによって若い世代の流入のきっかけになればと思います。</p> <p>バスの運営につきましては、市が直接運営するのか、民間に委託するのかの方法がありますが、他市の事例や皆様からの意見などを参考に検討していきたいと考えています。</p>
8	<p>ニュータウン地区では外国にルーツのある方が増加している。そのような子どもたちが日本の授業について行けず、置き去りになってしまっていると思う。そのような子どもへの対応は考えているのか。</p>	<p>現在も、外国籍の子どもたちに、日本語指導のための時間を設けています。今後そのような子どもたちが増えるとなれば、指導者を増やすなどの対応が必要になると考えています。</p>

No.	質問	回答
9	今後のスケジュールは決まっているのか。	スケジュールについては、今の時点では決まっていません。今回の意見交換会は、先日皆様にご協力いただいたアンケートの結果を示し、皆様の率直な意見が聞きたいと考え開催しました。今後の進め方については、各小中学校での意見交換会の内容を踏まえ、次は中学校区全体で同じように2回目の意見交換会を開催したいと考えています。その後は、保護者や地域の代表者の方、学校関係者などを集めた協議会で具体的な検討を進めていきたいと考えています。
10	藤山台小学校が統合した際の良い点と課題点は何か。	藤山台小学校が平成28年度に3校統合した際の良かった点については、学校の設備など充実した設備が整った、児童の数が増えクラス替えができるようになった、多くの友達とコミュニケーションが取れるようになった、運動会をはじめとする行事が活発になった、地域や保護者が学校に関わりやすくなつたといった意見があります。また、課題となつた点については、統合により校区が広がつて通学距離が長くなつたという意見をいただいています。他に、藤山台小学校は段階的に統合しており、最初に藤山台小学校と藤山台東小学校を統合した後に西藤山台小学校が統合したため、統合は一度で済んでほしかつたといった声も聞かれました。 藤山台小学校は、当時の児童数の推計から統合を行つたものの、現状ではより早い段階で児童数が減少しているため、再度適正規模の検討の対象となつています。
11	石尾台中学校区を超えて、隣接する中学校区とも検討が必要とのことだが、高森台中学校区との距離を示してあるということは、その想定なのか。ニュータウン地区が今後さらに大きな範囲で統合される方向性もあるのか。	石尾台中学校区内の小学校3校だけでは適正規模がかなわない可能性があるので、将来的には他の中学校区との統合も視野に入れて検討していかなければいけないと考えています。実際にどうするかは、今後皆様と協議していきたいと考えています。現時点では、高森台中学校区と一緒になることを示しているわけではありません。
12	岐阜県の山県市では小規模の学校を統廃合するのではなく、維持しているという話を聞いた。我々の母校がなくなるのは寂しい。統廃合ありきだという印象を受けた。できるだけ既存の学校を維持してほしい。	統合ありきではないのかという意見に関しては、私たちはフラットの状態で考えていますが、個人の受け止め方によってそれぞれ思いが変わってくると思うので、貴重なご意見として頂戴いたします。 山県市の小規模校につきまして、ニュータウン地区とは異なり、学校間の距離が遠いことなどから、統合するのではなく小規模校として維持していると聞いています。このような他市の情報も参考にしながら、検討していきたいと思います。

No.	質問	回答
13	今回のアンケートでは回答数が少ないため、今後、意見交換を踏まえて、再度アンケート調査など広く意見を募るような展開の仕方は考えているのか。 またリ・ニュータウン計画について、計画による児童数の増加見込みを考慮して、適正規模が必要なのかどうかを判断しないのか。	今後のアンケートの実施については未定ですが、意見交換会や協議会を開きつつ、広く皆様からの意見を募ることができる形を取りたいと考えています。 リ・ニュータウン計画について、担当部署が目標数値を設定して、流入人口を増やすために様々な施策に取り組んでいますが、現在は達成できていないというところであり、今の状況を踏まえて、計画の見直しを図りながら検討を進めています。 教育委員会としては、適正規模を考えるにあたって、仮に計画通りに進んで人口が増えた後の児童数推計ではなく、現状を見て検討を進める必要があると考えています。
14	各3校の築年数を知りたい。	それぞれの校舎の建築年は、玉川小学校は昭和53年、石尾台小学校は昭和54年、押沢台小は昭和57年です。 築年数は、玉川小学校が築47年、石尾台小学校が築46年、押沢台小学校が築43年となります。
15	仮に統廃合されたときに、先生はそのまま統合先に勤めるのか。	学校に配置される教員数は、クラス数によって決まっています。そのため、統合後のクラス数に応じた教員の配置となりますので、必ずしも統合後の学校に勤めることができるとは限りません。藤山台小学校が統合した際は、新しい学校を立ち上げるということから、統合前の学校に勤務していた先生が多く異動となりました。
16	アンケートの結果について、回答者数や母数を教えてほしい。	本日配布した資料の2ページに回答者数は示させていただきました。母数については、未就学児の保護者と地域の方の数は把握できておりません。
17	小中一貫校など新しい学校づくりに関する計画はあるのか。魅力的な学校ができれば、若い世代が流入するきっかけになると思う。	現時点では、具体的な計画は決まっていませんが、小中一貫校につきましても並行して調査しております。魅力ある学校をつくるということの考え方は皆様と一緒にありますので、まちづくりに繋がるような魅力ある学校をつくるために皆様と一緒に検討を進めていきたいと考えています。

3 石尾台小学校

No.	質 問	回 答
1	石尾台中学校区の児童は、複數学級が良いと考えている児童が60.4%ということだが、各学校個別で見た割合を知りたい。	玉川小学校は75.2%、石尾台小学校は38.5%、押沢台小学校は61.6%です。
2	石尾台中学校区内だけでなく、隣接する他の地区とともに学校規模適正化の検討を進めるのか。	石尾台中学校区の小学校3校を仮に統合したとしても、将来的には全学年でクラス替えができる規模となるのは困難だと推計しています。そのため、隣接する中学校区等も合わせた検討も必要であると考えています。
3	参考として藤山台小学校が3校統合された際のスケジュールを教えてほしい。	手順としては、平成25年に藤山台小学校と藤山台東小学校を統合し、平成28年に西藤山台小学校が統合して、現在の藤山台小学校が開校しています。 平成22年4月に藤山台中学校区学校規模適正化地域協議会が設置され、平成24年2月には「藤山台中学校区のよりよい教育環境の実現に向けた第1次小学校統合計画」が策定されました。協議会の設立から3年程度で最初の統合が行われています。
4	藤山台小学校は再び統合の対象となっているが、保護者から何か反対の意見は出ているのか。	藤山台小学校の保護者アンケート結果では、藤山台小学校が適正規模の対象となることについて、他の地区と比べて賛成の意見が多くなっています。 藤山台中学校区は小学校、中学校がそれぞれ一つしかないので、近隣の中学校区と合わせた検討が必要であると考えています。
5	藤山台小学校は過去に統合しているのにも関わらず、今回検討の対象となっているということは、当時の児童数推計の見通しが甘かったということか。	当時は今回と同じように、子どもが減少している中で、児童数を確保しようと検討を進めました。児童数の減少が想定よりも早くなってしまっているのは事実です。
6	アンケート結果では、登下校に関することを多くの方が心配しているということだが、自転車通学やバス通学など、通学手段に関して具体的な案などはあるのか。	具体的には決まってはいませんが、石尾台中学校区は坂が多い地区ということもあり、通学距離だけではなく、地形的な点も考慮して通学手段を検討する必要があると考えています。
7	どこに、石尾台中学校区の子どもたちが通う学校ができるのか。	今回の意見交換会は、アンケート結果を受けて、石尾台小学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めることに対してご理解を得たいということで開催させていただきました。 現時点では、仮に統合する場合に、どこに設置するかということは決めていません。そのようなことも含めて、今後も皆様と協議をしていきたいと考えています。
8	複數学級の良さはわかったが、単学級の課題は何があるか。	単学級であると、クラス替えができず人間関係が固定化しやすいことや、教員の配置数が増えないなどの課題があります。また、1学級35人の基準があるため、単学級だから必ず少人数学級になるというわけではありません。単学級と複數学級のどちらにもメリットとデメリットはありますが、やはり複數学級の方がメリットが多いと考えます。

No.	質問	回答
9	バスなどの他の通学手段について検討するということだが、通学距離について何か基準はあるのか。	文部科学省が公表している基準では、小学校は4km、中学校は6kmとなっていますが、春日井市では、小学校は1.5km、中学校は2kmを標準としています。しかし今後、バスなど別の通学手段を検討して導入することになった際は、文部科学省の基準を基に検討することとしています。
10	子どもの体力面を考えて、低学年と高学年の校舎を分けて通学させるようにすれば良いのではないか。	低学年と高学年を分けて、それぞれ別々の学校に通うことは、市が考える学校の適正な規模や、より良い教育環境の向上という目的から外れてしまうおそれがあるので、想定していません。子どもたち同士の関りを多く確保したいと考えているため、低学年と高学年を分校のように分けてしまうと、より小さな規模となってしまいます。
11	仮に統合となった場合は、新しい校舎を建ててほしい。	仮に統合が決まったとして、既存の学校を使用する場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合が想定されます。どの手法で検討を進めるかは皆様と話し合いをして決めたいと考えています。なるべく早いタイミングで本市も進めていきたいと考えているので、早く合意形成ができれば良いと考えています。
12	小学校は1学年の人数が35人を超えたら、2クラスにできるということか。	ご質問のとおり、35人を超える人数がいると複数学級にはなりませんので、その規模を確保したいと考えています。
13	早く統廃合はいつごろか。	スケジュールに関してはまだ決まっていません。この地区の方向性について住民の皆様と市との合意形成ができるタイミングによって、今後のスケジュールが変わってきます。仮に統合と決まった場合、既存の学校を使用する場合や新しい学校を建てるのかで、工事の期間が変わってきます。
14	他の地区的進捗状況など、小中学校の適正な規模等に関する情報は随時、連絡はあるのか。	現在、5中学校区内の各17校を並行して意見交換会を実施していますが、今後は中学校区単位での意見交換会の実施を考えています。地域の皆様と早く合意形成ができた地区から取り掛かりたいと考えています。他の地区的状況に関しても、皆様に情報提供をしていく予定です。
15	今後は協議会を立ち上げて議論を進めていくとのことだが、各地域によって考え方方が違うので合意形成が難しいと思う。意見がまとまらない時はどのように進めるのか。	全国的な例を参考にすると、合意形成がうまくいかない場合は一旦休止し、何年後に再開するといった方法もあります。ただ、スピード感をもって事業に取り組むことが重要であると思うので、定期的に皆様と顔を合わせながら、お互いの良いところを理解し、議論が継続できる環境を残すことが重要と考えます。
16	最終的な方針の決め方はどのような方法ですのか。	皆様の意見を踏まえながら、最終的には市が決定するという形になります。
17	本日の意見交換会について、保護者の参加率が低い。具体的な方針や案を示さないと保護者は自分事と思ってくれない。保護者の出欠を取るなど積極的に保護者に关心を持っていただくように働きかけてほしい。	今後は中学校区での意見交換会を開催しようと考えています。次回の意見交換会の開催の際の参考にさせていただきます。

4 押沢台小学校

No.	質 問	回 答
1	将来の児童数の推計値について、押沢台小は他の学校と比べてそれほど減っていない。その要因をどう考えているか。	その要因については分析できていません。 小学校の令和13年の推計値は、現在の0歳から5歳までの人口に社会増減を加味した値であり、実数に近いものとなっています。
2	令和22年度の推計値は妥当なのか難しいと思うが、藤山台小は統合して10年経ち、また検討の対象校になっている。今回の検討において、令和22年度の推計値をどう考えているのか。	令和22年度の推計値は、市が将来の人口動向を推計した「人口ビジョン」から推計した数値となっています。国勢調査の数値をベースに、過去の転入転出率、生存率、出生率などを加味して推計しています。 この数字を示したのは、学校の適正規模を考えるためにあたって、令和13年度よりももっと先の未来をみて、子どもの数や学校規模がどうなるかを皆さまと考えるためにお示しました。 藤山台小の統合の際も同じように人口推計を参考にしましたが、推計以上に児童生徒数の減少が早く、今回の検討の対象となっております。 令和22年度の推計値では、石尾台中学校区の3つの小学校をあわせたとしても、1クラスになる学年があると推定されることから、隣接する中学校区もあわせた検討も視野に入れる必要があると考えています。
3	押沢台小学校を全学年2クラスにすればよい。そうすれば押沢台小学校は廃止とならない。今の学区制をやめて、学校を選択できるようにしてほしい。学校の先生が合わないという子はどんどん転校すればよい。不登校になるのを防ぐには簡単に転校できるようにすることも良いと思う。 学校選択制となれば、学校間の競争になる。学校評価を実施して、保護者や子どもたちが学校を評価し、結果をホームページに掲載する。人気のある学校は児童数が増える。各学校の特色をもって、人を集めればよいと思う。私立小学校、中学校の授業料が無償になつたら、この学校は選ばれるのか。そんな時代ではない。 夢と希望がある学校制度をつくる、数値だけを見て対応するだけでは、魅力がない。	貴重なご意見としてうかがわせていただきます。学校区の見直しは慎重に検討する必要があると考えています。
4	教育環境として、1学年に複数クラスが必要なことは理解できるが、1学級35人というのは適切なのか。1学級の児童数を少なくするなど、その時代に応じた適切な教育をすることについての考えを聞きたい。	教員の配置については、国の基準に基づき、愛知県が定めた35人学級の基準をもって配置されています。本市の現状の財政面から考えると、独自に市の予算で教員を配置しクラス数を増やすことは困難ですが、補助する教員を充てるなど複数で指導できる体制をとっています。 子どもたちにとってより良い教育環境を実現することが、市の基本的な考えになるので、皆さまから意見をいただいて検討を進めたいと考えています。

No.	質問	回答
5	7年くらい前に、学校の統合をするという話を聞いた。それから、なかなか話が進まないのはなぜか。アンケートで賛成の方が多いのに、改善されていないのはなぜか。また、一般的に統合の話はどれくらいの期間が必要になるのか。	<p>過去には、藤山台中学校区で小学校3校の統合をしましたが、石尾台中学校区で市が具体的な検討を進めていたことはありません。</p> <p>今後のスケジュールについては、今回の意見交換会を踏まえ、2回目の意見交換会の開催を予定しています。その後は、地域や保護者の代表者、学校関係者などで構成される協議会のようなものをつくって、具体的な検討を進めたいと考えています。</p> <p>スケジュールについては、学校施設について、既存の学校を使う場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合によっても変わってきます。大規模な改修工事や新築をするとなると、設計の期間と工事の期間を合わせ、5年程度の期間が必要となると考えています。市としては、適正規模の課題を解決するために、スピード感をもって取り組みたいと考えています。</p>
6	統合して、クラス替えができるようになるのは良いと思うが、一方で通学距離が長くなることや、1クラスの人数が増えることも不安に感じる。藤山台小学校で3校統合した後の保護者の意見はどうだったか。	<p>藤山台小学校の統合後の意見では、良かった点について、新しく充実した施設で学べることや、クラス替えができるようになり多くの友達とコミュニケーションができるようになったなどの意見がありました。</p> <p>また、課題としては、統合で校区が広がり通学距離が長くなうことや、2段階の統合に対し一度に統合した方がよかつたなどの意見がありました。</p>
7	隣接する中学校区とあわせて検討する可能性もあるということだが、石尾台中学校区で協議会をつくった場合、他の中学校区と合わせた検討を行うのが難しいのではないか。	地域のつながりなどを考えて、まずは各中学校区で協議会を立ち上げる予定です。中学校区を越えた検討をする場合は、協議会を合同で開催することも考えています。
8	今後の方針について、小学校3校の統合は想定できるが、中学校はどうなるのか。	地域的なつながりを考えて、まずは中学校区単位で検討していきます。具体的な検討を進めていくにあたって、皆さまと協議しながら詳細を決めていきたいと考えています。
9	地区の住民がほとんど戸建てであることなど、同じような家庭環境や生活水準の方たちと同一の学校を望む人もいると思う。余計なトラブルを避けるためにも、参考にしてほしい。	貴重なご意見として、今後の検討の参考にさせていただきます。
10	小学校は地域の住民活動、災害時の避難所として使用するなど地域の拠点である。統合になると施設の利活用についての問題もでてくるが、学校施設、跡地などの活用方針を教えてほしい。	<p>仮に統合した場合、跡地の活用については、現在、体育館が避難所や投票所として使われていることなども考慮し、市全体で別に検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>まずは、子どもたちのために、より良い学校づくりを考えています。</p>
11	教育関係の部署では子どものための学校づくりが優先順位かもしれないが、住民にとっては、跡地の活用も並行して考えてほしい問題である。関連する他の部署と合わせて、検討してほしい。	学校施設は地域に根差した施設であるため、学校の適正規模の取組と同時並行して跡地の活用などを考えることは大事なことだと思います。しかし、跡地の活用などの検討を優先するために、子どもたちの教育環境の向上について疎かになることは避けたいと考えています。

No.	質問	回答
12	今回の取組には大賛成である。様々な意見があると思うが、子どもの6年は大人とは違う。今困っている人もたくさんいる。できるだけ早く進めてほしいと思う。ただし、これから10年かかる話であれば興味がなくなる。数年以内に進む可能性はあるのか。	皆さまの意見を聞きながら、最終的には市が判断することになりますが、地域の皆さまとの話が早くまとまり、今ある学校をそのまま使って統合する場合などは、10年もかかりません。
13	今後は期間や予算のことを考えながら検討することになると思うが、今日の資料には予算等について何も書かれていない。無尽蔵にお金を使えるわけではないと思うので、協議会の検討の際には、明確に示さないといけないと思う。	協議の前から市の予算等を示すのは難しいと考えます。協議の中で挙がった意見について、実現可能かどうかをあらためて回答していくことになると考えます。
14	今後の進め方について確認したい。 また、藤山台小学校の統合の際の概要と工事の期間を知りたい。統合により通学区域が遠くなることについて、どのような協議をしたのか。	本日の意見交換会の後に、中学校区単位で2回目の意見交換会を予定しています。中学校区内の他の学校の意見交換会での意見等を共有し、その後の協議会についての話をさせていただく予定としています。 藤山台小学校の場合は、平成22年4月に「藤山台中学校区学校規模適正化地域協議会」が設置されました。その後、平成24年2月に「藤山台中学校区のよりよい教育環境の実現に向けた第1次小学校統合計画」、平成25年2月には「第2次小学校統合計画」を策定しました。また、現在の藤山台小学校の工事期間は約3年かかっています。 通学の問題につきましては、通学路が変わることから、保護者を交えた協議をしていましたが、距離が変わることで移動手段を別に用意したことはありません。
15	バスの詳細について、有料なのか、便数は多くあるのか、乗り遅れた子はどうするのか、学年が違って、帰る時間が異なったりする場合は対応してもらえるのか。 現在、学校のイベントがあったときに保護者は車ではいけない。統合した後は大変になると思うが考えを聞きたい。	仮に統合することになった場合は、通学区域が広くなり、子どもの負担を考えるとバスの必要性について検討していくこととなります。具体的な検討はまだ先になりますが、バスを運用するのであれば、他市の事例も参考にしながら運営方法や便数などを検討していきたいと考えています。 また、駐車スペースについては、他の地区の保護者の方からも同じ意見をいただいている。新しい学校の検討の際に考えていきます。
16	現在も坂を上って通学する子たちは苦労していると思う。どのくらいでバスが使えるようになるのか。	バスの使用については、学校の適正な規模等を考えるためにあたって検討していく事項になりますので、現状でバスの運用をすることは考えていません。
17	対象地区が5つあって、各中学校区で取組を検討することだが、5地区で小学校1つずつに統合するということか。	仮に統合ということになれば、一定の学校規模で教育環境を整えたいと考えています。しかし、市が一方的に決める話ではないので、皆さまと意見交換を進める中で検討を進め、最終的には市が決めることになると考えています。

No.	質問	回答
18	3校統合ではなく、2校が統合して1校が残るケースもあるのか。	可能性はあります。しかし、市では、子どもたちが社会性を身に付けることができるなどの環境となるように、クラス替えができる学校規模とすることを目的にしているため、規模の小さい1校が残ってしまう対応は難しいと考えています。
19	市としての方針を提示せずに、議論して今後の方向性を決めていくと言われると教育委員会はどんな考えをもっているかわからな。い。	現在の進捗は皆さまの意見を聞きたいという段階です。皆さまからの様々な意見を聞いた上で、今後の方針を考えていきたいです。
20	1中学校区に1小学校になると想定されたが、義務教育学校をつくる考えはあるか。	小学校、中学校を1つの学校で過ごす義務教育学校は選択肢の1つとして考えられますが、具体的に決定はしていません。他市では義務教育学校や小中一貫校の事例がありますので、他市も参考にし、調査研究していきたいと考えています。
21	義務教育学校にすれば、校長が1人になって人件費も浮くのではないか。	小中一貫教育には、義務教育学校と小中一貫校の2種類があります。義務教育学校は校長1人ですが、小中一貫校では校長2人が配置されます。それぞれの運営形態のメリット、デメリット等を踏まえて考える必要があります。
22	義務教育学校で学ぶことで、中1ギャップというのがなくなることは、メリットの1つだと思う。	小学校から中学校に環境が変わることの負担が解消されるのであれば、メリットの1つになると考えます。
23	他の中学校区とあわせて検討を進めていくのか。保護者の様々な意見を聞いてほしい。また、ニュータウンに人を呼び込む施策は市として進めているのか。	地域のつながりを考えて、基本的には、まずは中学校区ごとで検討を進めることを考えています。しかし、中学校区単独では解決できない場合は、他の中学校区とも合わせた検討を視野に入れています。 より多くの方からの意見をお聞きできるように、次回の意見交換会については、土曜日や日曜日の開催を予定しています。 また、ニュータウンの施策については、市ニュータウン創生課が中心となって取組を進めています。しかし、全国的な少子化の傾向は避けられないものであり、市としては、ニュータウンの施策と合わせて、子どもたちにとってよりよい教育環境の実現に向けた施策を同時並行して進めていきたいと考えています。
24	押沢台小の子どもの家は定員が一杯で入れない子がいる。3校統合したときに子どもの家に入れるかどうか、定員が一杯になってしまうと困ってしまう。子どもの家が広く利用できるように検討してもらいたい。	子どもの家は放課後の子どもの居場所として欠かせないものだと認識しています。統合することになった場合も、新しい学校で運営されることが望ましいと考えています。子どもの家は、受入れ人数に職員配置や面積の要件があることから、市の担当部署としっかりと調整したいと考えています。
25	代表が集まる協議会だと閉鎖的な印象を受けてしまう。意見交換会だと広く公開されている印象であることから、より多くの意見を聞きながら進めてほしい。	今後の進め方の参考にさせていただきます。
26	小中一貫校の話がでたときに、これから調べると発言があったが、このことについてどれだけ検討しているのか。	小中一貫校の整備についてはまだ決まっていないため、選択肢の一つとして考えています。情報収集は進めており、他市の事例を確認しているところです。

No.	質問	回答
27	春日井市は子育てのしやすさを推している。統合ありきではなくて、魅力ある学校をつくって人を呼び込んでほしい。 子育てや子どもたちに投資できる市になってほしい。	ご意見を参考にさせていただきます。
28	春日井市としてはいつ統合するのか。どのような計画を考えているのか。	スケジュールの部分については、地区によって様々な考え方があると思うので、意見交換会をさせていただく中で、話がまとまった時に、速やかに進めていきたいと考えています。小中一貫校や魅力ある学校、様々な選択肢がありますが、情報提供はしっかりと行っています。

V 本市の考え方について

「児童生徒数推計」、「アンケート結果」、「地域の特性」に「意見交換会」での意見も踏まえ、石尾台中学校区における各学校の適正規模及び適正配置に向けた考え方を示します。

1 児童生徒数推計

- (1) 石尾台中学校は「小規模」又は「やや小規模」で推移すると推定されます。
- (2) 小学校については、令和 22 年度では全ての学校が全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であり、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の 3 校を統合した場合でも、「小規模」になると推定されます。

2 アンケート結果

- (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級が望ましいと考えられています。
- (2) 保護者は子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は行事でクラスに活気があることやクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。
- (3) 学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関する事を多くの方が心配しています。

3 地域の特性

- (1) ニュータウン地区内で、石尾台中学校区は高森台中学校区と接しており、石尾台中学校は、直線距離で高森台中学校から約 1.1 km の距離に位置しています。
- (2) 中学校区全体の北部から南部にかけて傾斜がある地形で、登下校の手段に配慮する必要があります。

4 意見交換会

- (1) 参加者からは、学校の統合に関する事を始め、今後のスケジュールやバスなどの通学について、魅力ある学校づくりについての質問が多くありました。また、学校跡地や情報発信についてなど、様々な質問がありました。



**石尾台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように
隣接する中学校区を含めた学校統合に向けて検討を進めます。**

＜検討にあたって＞

- 1 子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討していきます。
- 2 隣接する中学校区と合同の意見交換会や懇談会の開催を検討します。
- 3 登下校について、必要に応じて、バスの利用などの通学手段を検討していきます。

※ このページは、製本する際に、見開きで見やすい構成とするため、白紙のページと
しています。

【参考資料】

1 高蔵寺ニュータウン地区の他中学校区の児童生徒数推計

(1) 藤山台中学校区

ア 藤山台中学校 ※R15 から「小規模」、R16 から「過小規模」になると推定

学年	R7(やや小)		R8(やや小)		R9(やや小)		R10(やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	60	2	70	2	59	2	51	2
2年	55	2	59	2	69	2	58	2
3年	75	2	54	2	58	2	68	2
合計	190	6	183	6	186	6	177	6

イ 藤山台小学校 ※R11 から「小規模」になり、R22 では「過小規模」であると推定

学年	R7(適正)		R8(適正)		R9(適正)		R10(適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	42	2	42	2	42	2	39	2
2年	58	2	41	2	41	2	41	2
3年	43	2	57	2	40	2	40	2
4年	50	2	42	2	56	2	39	2
5年	55	2	49	2	41	2	55	2
6年	69	2	54	2	48	2	40	2
合計	317	12	285	12	268	12	254	12

※ R19 までは、R7 の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22 は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
43	2	56	2	42	2
50	2	42	2	55	2
57	2	49	2	41	2
150	6	147	6	138	6

R19 (過小)	
生徒数	学級数
27	1
28	1
27	1
82	3

R22 (過小)	
生徒数	学級数
23	1
21	1
29	1
73	3

R11 (小)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
35	1	35	1	31	1
38	2	34	1	34	1
40	2	37	2	33	1
39	2	39	2	36	2
38	2	38	2	38	2
54	2	37	2	37	2
244	11	220	10	209	9

R22 (過小)	
児童数	学級数
19	1
26	1
20	1
23	1
21	1
27	1
136	6

(2) 高森台中学校区

ア 高森台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「小規模」であると推定

学年	R7(やや小)		R8(やや小)		R9(やや小)		R10(やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	99	3	78	3	95	3	89	3
2年	92	3	98	3	77	2	94	3
3年	94	3	91	3	97	3	76	2
合計	285	9	267	9	269	8	259	8

イ 高森台小学校 ※R13まで「小規模」で推移、R22では「過小規模」であると推定

学年	R7(小)		R8(小)		R9(小)		R10(小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	34	1	32	1	32	1	36	2
2年	36	2	35	1	32	1	32	1
3年	41	2	37	2	36	2	32	1
4年	38	2	42	2	38	2	37	2
5年	39	2	39	2	43	2	39	2
6年	34	1	40	2	40	2	44	2
合計	222	10	225	10	221	10	220	10

ウ 中央台小学校 ※「過小規模」で推移

学年	R7(過小)		R8(過小)		R9(過小)		R10(過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	21	1	23	1	16	1	13	1
2年	27	1	21	1	23	1	16	1
3年	29	1	27	1	21	1	23	1
4年	22	1	29	1	27	1	21	1
5年	33	1	22	1	29	1	27	1
6年	21	1	33	1	22	1	29	1
合計	153	6	155	6	138	6	129	6

エ 東高森台小学校 ※「過小規模」で推移

学年	R7(過小)		R8(過小)		R9(過小)		R10(過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	18	1	16	1	21	1	17	1
2年	22	1	18	1	16	1	20	1
3年	21	1	21	1	18	1	16	1
4年	23	1	20	1	20	1	18	1
5年	20	1	22	1	20	1	20	1
6年	18	1	20	1	21	1	20	1
合計	122	6	117	6	116	6	111	6

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)		R19 (やや小)		R22 (小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
94	3	86	3	74	3	47	2	38	2
88	3	93	3	85	3	54	2	35	1
93	3	87	3	92	3	47	2	36	1
275	9	266	9	251	9	148	6	109	4

R11 (小)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
27	1	40	2	32	1
37	2	27	1	41	2
32	1	38	2	27	1
32	1	32	1	39	2
38	2	32	1	32	1
40	2	39	2	32	1
206	9	208	9	203	8

R22 (過小)	
児童数	学級数
16	1
16	1
19	1
17	1
15	1
13	1
96	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
20	1	12	1	11	1
13	1	20	1	12	1
16	1	13	1	20	1
23	1	16	1	13	1
21	1	23	1	16	1
27	1	21	1	23	1
120	6	105	6	95	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
10	1
12	1
13	1
10	1
13	1
8	1
66	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
12	1	19	1	16	1
17	1	12	1	19	1
20	1	17	1	12	1
16	1	20	1	17	1
18	1	16	1	20	1
20	1	18	1	16	1
103	6	102	6	100	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
9	1
10	1
10	1
11	1
8	1
7	1
55	6

(3) 岩成台中学校区

ア 岩成台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「過小規模」であると推定

学年	R7(やや小)		R8(やや小)		R9(やや小)		R10(やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	80	3	91	3	89	3	89	3
2年	75	2	79	2	90	3	88	3
3年	80	2	74	2	78	2	89	3
合計	235	7	244	7	257	8	266	9

イ 岩成台小学校 ※R11から「過小規模」になると推定

学年	R7(小)		R8(小)		R9(小)		R10(小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	27	1	30	1	31	1	30	1
2年	35	1	27	1	30	1	31	1
3年	38	2	35	1	27	1	30	1
4年	33	1	38	2	35	1	27	1
5年	38	2	33	1	38	2	35	1
6年	30	1	38	2	33	1	38	2
合計	201	8	201	8	194	7	191	7

ウ 岩成台西小学校 ※R12から「小規模」になり、R22では「過小規模」であると推定

学年	R7(適正)		R8(適正)		R9(適正)		R10(適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	50	2	42	2	42	2	37	2
2年	38	2	50	2	42	2	42	2
3年	51	2	38	2	50	2	42	2
4年	58	2	51	2	38	2	50	2
5年	46	2	59	2	51	2	38	2
6年	52	2	46	2	60	2	51	2
合計	295	12	286	12	283	12	260	12

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)		R19 (やや小)		R22 (過小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
92	3	70	2	76	3	37	2	31	1
88	3	91	3	69	2	54	2	29	1
87	3	87	3	90	3	57	2	31	1
267	9	248	8	235	8	148	6	91	3

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
29	1	26	1	17	1
30	1	29	1	26	1
31	1	30	1	29	1
30	1	31	1	30	1
27	1	30	1	31	1
35	1	27	1	30	1
182	6	173	6	163	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
11	1
14	1
15	1
13	1
15	1
12	1
80	6

R11 (適正)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
37	2	28	1	20	1
37	2	37	2	28	1
42	2	37	2	37	2
42	2	42	2	37	2
50	2	42	2	42	2
38	2	50	2	42	2
246	12	236	11	206	10

R22 (過小)	
児童数	学級数
20	1
15	1
21	1
23	1
19	1
21	1
119	6

2 高蔵寺ニュータウン地区 学校区図

